

BRÜDER

Fukushima-Chor für Beethovens Symphonie Nr. 9

東日本大震災復興支援・全国「第九」合唱団合同演奏会

「合唱王国」福島から復興を全国へ発信！



助成:公益財団法人福島県文化振興財団・一般財団法人ふくしま未来研究会
東日本大震災復興支援第24回ふくしま「第九」の会コンサート
2022年5月7日(土) ふくしん夢の音楽堂(福島市音楽堂)大ホール

指揮:佐藤宏之・ソプラノ:竹下裕美・メゾソプラノ:小野綾香・テノール:松原陸・バリトン:清水勇磨
管弦楽:ふくしま「第九」の会管弦楽団・東京ロイヤルフィルハーモニー管弦楽団
合唱:全日本「第九を歌う会」連合会・一般公募ふくしま「第九」の会合唱団
主催:ふくしま「第九」の会

「第九」に参加することの意味



副理事長兼音楽監督
嶋津武仁

今年5月の演奏会は、幸いプロのメンバー24人に参加して頂き、60人程の管弦楽団で臨むことができました。そうした考えの背景には、アマチュアとはいえ、地域の演奏者を中心に、つまり福島県在住、或いは出身の音楽家たちを中心に置くべきであるという私の「意地」でもあった。▶コロナ禍で3度延期したとは言え「大震災復興記念」を掲げて開催された演奏会は、そうあるべきと考えた。

▶プロ奏者の参加は地域の演奏者にも大きな刺激になり、コンサートとしても、参加者たち自身にも様々な経験の場になったとも言える。▶こうした有意義なイベントは、参加する意味を理解、共有することも必要ではないかと強く感じている。▶「合唱付」の交響曲である「第九」が持つ、真の意味での「理想」に近づくことを願うばかりである。

群盲象を撫でる

元仙台フィル Vn 奏者: 斎藤恭太

意味は、皆さんご存じのとおりである。第九という作品は、最後の合唱の部分以前に、モーツァルトの交響曲2曲分にもなる難解深遠で演奏困難な器楽パートが聳えている。▶オーケストラはこれを演奏しなければならない訳だが、コロナによる度重なる延期による練習の中断、感染増加時期の参加辞退者の続出による人の入れ替わりなど、練習を阻害する要因が余りにも多すぎた。▶オケメンバーの多くが未経験者だった今回、まるで象を撫でる盲人のような気分で練習に参加していたのではなかったかと思うのだ。▶GPでプロの賛助が入った音を聴いて初めて、少し訳が分かったというメンバーも少なからずいたに違いない。とにかく困難だらけで見通しの無い中、最後まで踏ん張ったオケメンバーには拍手を送りたい。



《ふくしま「第九」の会》

URL <https://daiku2018.webnode.jp/>

E-mail: fukushima_daiku2018@crest.ocn.ne.jp



最高の Solisten と絶賛。左から Ten. 松原陸、Sop. 竹下裕美
M-Sop. 小野綾香、Bar. 清水勇磨の各氏 (5/7 撮影: 岡部善通)

Wien 留学、ヨーロッパの「第九」

Sop: 竹下裕美

未曾有のコロナ禍により、これまで当たり前だった事が当たり前でない世界へ、環境や生活も変化しました。音楽の世界も同じく、特に歌を伴う公演は未だシビアな状況下に置かれ、制限される中で活動を行っています。

東日本大震災復興支援・福島 2020 オリンピック祝祭の第九も激動の3年間を乗り越え、今年悲願の開催となりました。事務局の皆様方におかれましては想像を絶する大変な日々でいらっしやっただと思ひ、ご尽力賜りました事を心より御礼申し上げます。

また合唱団の皆様方におかれましても、延期の度に気持ちを繋げていくのは容易な事ではなく、もどかしい年月を過ごされていたかと存じます。会場で皆様の温かいお声を拝聴し、Freude が響きわたった瞬間は涙が溢れました。心の奥深くから奏でる熱い歌声やオーケストラの音色に感激し、このような素晴らしい機会を与えて頂きました事、改めまして深く御礼申し上げます。

第九は私にとって生涯歌い続けていきたい曲であり、留学中も勉強を重ねたレパートリーでした。日本ではよく年末に演奏されますが、ヨーロッパでは季節に関係なく、どこへ行っても第九の演奏会が行われています。似たり寄ったりな第九など一つもなく、その土地柄や人の色など、表情豊かに変わる様はどれも生きた音楽で、最後のお客様達の拍手までも活気に溢れていたことを鮮明に思い出します。

ヨーロッパでは殆どの家庭でクラシック音楽に馴染みがあるせいか、道ですれ違う子供たちにしても、各々に好きなフレーズを口ずさんで歩いていた。また、どこへ行っても人々の優しさや温かさに触れることが多く、この心の豊かさもきっと、音楽が関係しているのだろうと感じずにはいられませんでした。

母校のウィーン国立音楽大学には、世界中から演奏家



ウィーン国立音楽大学

を目指して若者たちが集まります。言葉や育ってきた環境は違っても皆、目指す目標は一緒に、志高く切磋琢磨した

仲間達。そして、そこで過ごした時間は私にとってかけがえのない生涯の財産となりました。

このコロナ禍によって友人達も同じ思いをしながらか過していると思いますが、それと同時に、皆も頑張っているから私も頑張らなければ！と励まされています。

まだこの先も世界は変化していくかもしれませんが、音楽は昔も今も変わらず、常に側にいて寄り添ってくれます。私はまだ、未熟な演奏家ですが、また皆様方と第九を奏でていけるよう精進し、身体は太くて大きいですが、細く長く歌い続けられるよう勉強して参ります。

最後になりましたが、来年も皆様におかれましてご多幸の年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

「第九」は、人生を豊かに

M.Sop: 小野綾香

この度は東日本震災復興支援、第24回ふくしま「第九」の会コンサートのご成功おめでとうございます。

三度の延期に遭いながらも無事開催できたこと、関係者の皆さまのご尽力に心より感謝申し上げます。第九は私にとって何度も歌っている大切な曲目ですが、今回は一段と心に残る機会となりました。ご一緒くださいました皆さま、本当にありがとうございました。

私は普段、演奏活動の傍ら後進の指導にあたっており、現在は母校である東京藝術大学附属音楽高等学校にて、今秋に人生で初めて「第九」を演奏する生徒たちに声楽を教えています。

この作品を、まだ若く合唱経験の浅い高校生だけで歌うのは大きな挑戦でもあります。生徒たちの初々しい歌声を聴いていると自分自身が第九と出会った18歳当時の事がこの間のように思い起こされます。

初めてのドイツ語に戸惑い、大編成のオーケストラに気後れしつつも同級生と楽しく和気藹々と練習していた日々を思い返すと、心に柔らかな温もりが湧き上がるのを感じます。

皆さまの「第九との初めての出会い」も、きっとそれぞれに素敵な思い出があるのでしょう。本番まであと少し。若い彼ら、彼女らが気持ちよく第九デビューの日を迎えられるよう、私も微力ながら精一杯指導をしていきたいと思っています。

それにしても、第九を歌えるということは一生ものの財産ですね。今回合唱に参加された皆さまも、全国から選りすぐりの「第九歌い」が一堂に集結したと伺いました。各地の歌い手たちが共に集い、声を合わせる…一夜にして唯一無二の団結力を築き、個々の経験と知識、エネルギーによって演奏会を成功に導くというのは本当に素晴らしいことだと思います。

これからもベートーヴェンの音楽が皆さまの人生を豊かに彩り、充実した第九ライフを送られますよう心よりお祈りしております。私も今年は横須賀芸術劇場、愛知県芸術劇場と第九公演が続きます。これからも頑張ります！本当にありがとうございました。

旅行先で第九を歌う

認定NPO 鳴門「第九」を歌う会: 小室恒二

私は旅行好きの人間ではありませんでしたが、第九を歌う為に国内外に旅行するようになって少し変わりました。数年前には会津若松市で歌いました。それが、コロナになって状況が変わり、申込んでいた幾つかの旅行が中止になりました。そんな中、今年「古関裕而の街」福島市へ歌いに行けたのは有難い事でした。ホールの音響効果は素晴らしかったです。そして、練習の前に散策した信夫山も最高でした。街全体に穏やかさを感じました。

「第九」100回出演

名古屋「第九」合唱団
会長: 芳山明久



念願の福島への合唱旅行が実現しました。新緑の中の会場は古関裕而記念館に隣接する絶好のロケーション。参加者 18 名は福島の三日間を満喫させて頂きました。合唱王国、福島の皆様との歓喜の歌声は大ホールを覆い、胸に迫りました。

交流会に向かう車中で岡部事務局長様の苦悩から歓喜に至るご苦労話と、同乗のソリスト小野様が愛知ご出身で、12月に名古屋で第九に出演されるとのお話は嬉しい驚きでした。

私事で恐縮ですが定年の翌年、教育テレビでN響の第九に魅せられ「第九合唱」デビュー、今年末に出演 100 回を数えます。レクイエム・メサイア・ミサ曲等々、古典派の大曲にも楽しく取り組んでおります。第4コーナーの今、合唱と旅は人生を彩ってくれています。

東日本大震災復興支援 ふくしま「第九」の会コンサートを終えて

NPO 法人習志野第九合唱団理事: 小林正典

ふくしま「第九」コンサートを終えて約半年が経過して振り返り第九の想いを考えさせられます。

当初、2020年7月の東京オリンピック祝祭及び東日本大震災復興祈念の想いを第九に込めて発信することで全国から福島へ結集できる喜びに満ちておりました。

しかし、新型コロナの感染拡大により3度の演奏会延期という前代未聞の事態と直前の福島地震により会場変更という演奏会自体開催できるのか極限状況を事務局や関係各位皆様のご尽力のおかげで演奏会開催できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

大震災から11年経過し復興支援の想いと世界での様々な争いに対して我々第九同志は、「第九」を歌い続けることで全世界の平和と人と人との連帯を深めることを今後も福島から発信していくことを忘れてはならないと感じております。



幸せなピアニスト

pf: 柳沢慶子

それは、まるで空から降ってくるすさまじい滝のような音だ！演奏家への極上の賛辞の拍手。私は、その音をこの身体で8回も浴びた!!その瞬間、ピアニストにとってかけがえのない体感、喜び。その時のために、この8曲に2年間

かけてきた。隅田川の長堤にかかる桜を思い浮かべ、川面に敷きつめられ、浮かぶ花びらを想いながら・・・。

ソリストがのびのびと歌えるように支え、曲への想いを音楽堂のスタインウェイに全身で込めた。ステージに立つ者にしか味わえないあの滝のような拍手の賛辞。それを求め、私はまたステージに立つ。

會津の心意気、松江豊壽

むつ下北第九: 芹澤俊一



日本の「第九」は、会津出身で第一次世界大戦時に坂東俘虜収容所長であった松江豊壽の「武士の情けと思いやりの心」の賜物と言えよう。その会津とむつは、明治維新時の戊辰戦争の結果、会津藩が陸奥斗南藩へ転封となった縁から姉妹都市となっており、各市での第九には互いに市長が親書を送る仲である。

今回、コロナや地震等の幾度もの苦境を乗り越えたふくしま「第九」にむつ下北第九から参加でき、東日本大震災復興支援と相まってとても感慨深かった。関係されたすべての方に感謝！

九州から福島「第九」に参加して

田川で第九を歌うバイ合唱団代表: 卯城保浩

2020年3月の東北ユースオーケストラ(TYO)ツアーが中止になり、東北で第九を歌いたいと申し込んだ福島第九でした。2020年、'21年とコロナ禍で延期に、TYO第九演奏会ツアーが、'22年3月に開催されることに、盛岡、仙台、福島、東京の4公演が予定されていましたが、3月の地震の影響により会場が使用できず、仙台、福島公演が中止になりました。しかし、延期になっていた福島第九が、関係者の方々のご尽力により、会場を変更して開催される運びに、TYO第九演奏会では福島の地で歌えなかった思いも込めて、平和への祈りと願いを込めて歌った第九でした。ありがとうございました。



大阪府堺市
世界遺産「第16代仁徳天皇陵」

「第九」のご縁

はばたけ塚! 合唱団長: 石田馨

東日本大震災復興支援演奏会として準備されながら、コロナ禍で3回もの延期。演奏会を企画された役員には、大変なご苦労があったとお察し申し上げます。

私達は待ちきれず二度も下見に・・・。演奏会では、隣で歌った方が鳴門第九の方。鳴門には毎年参加していますが、コロナ禍と耐震工事の為、延期になっています。落ち着けば、また参加する予定です。

今回の演奏会では大阪交響楽団コンマスの森下さんから、「はばたけ塚が核となって感動の第九演奏をしてもらっている」とのお話があり驚きました!!

最後に福島の役員の皆様の細やかな心づかいと何度もコンサートをキャンセルするたびに、心が折れる思いをされつつ開催されたことに感謝しています。

伝統の灯を消さないために

福島県立医大混声合唱団・燦 顧問:風間順一郎

合唱王国福島県にあって、福島県立医大合唱団も50年を超える歴史を持っている。黎明期のバンカラなグリーククラブから現在の混声合唱団・燦へと緩やかにスタイルを転向させながら、先人へのリスペクトも忘れない。定期演奏会には大勢の卒業生が訪れステージを共にする。外様の筆者も分け隔てなく迎え入れてくれる懐の深さも嬉しい。

そんな愛すべき混声合唱団・燦に降りかかった最大の試練が、このたびのCOVID-19であった。県民の健康を守る使命を課された福島県立医大は、率先して感染対策に取り組むべき義務がある。飛沫を広げてしまう合唱活動は自粛を余儀なくされた。

そして失って初めて私たちは自分たちが歌えることの幸せを痛感したのである。それだけではない。先人が築き上げてきた合唱文化が、いま途切れようとしている。これではいけない。近い将来に必ず再び立ち上がり、伝統の灯をともし続けるのだ。そう、心に誓っている。

【俳句コーナー】

1824年5月7日、**Beethoven** は **Wien** で「第九」を初演。その記念日に福島でも演奏出来たことは奇跡であり、大歓喜！

五月七日 神の采配「第九」歌う
聖五月「長崎の鐘」胸に響く
タンポポは 自由を求め 宙に飛ぶ Alt 岡部 菊

霧の中 行けば禅師に 導かれ Baß 岡部善通
(Palbatrus 信天翁)

初めての「第九」 Alt: 福島紀子

5月7日、音楽堂大ホールにオーケストラと大合唱の歓喜の歌が響きわたりました。私はバルコニーに立ち、気分は高揚し歌い切った感いっぱい、仲間と喜び合いました。初めての参加でしたがコロナ禍の中、大地震も重なり三度の延期で心はくじけ、やめようかと思いました。

でも、ドイツ語の発音や音取りから指導して下さる先生、ベートーヴェンを熱く語る先生や諸先輩に引っ張られ、大舞台上に立ち歌い切ることが出来ました。心より感謝しております。「第九」に乾杯!!

私の夢 Sop: 星真奈歌(高2)

初めて「第九」を歌いました。父が歌ったので知っていましたが、いざ自分が歌うとなるとレベルが高くとても緊張しました。しかし、大勢で完成させた「第九」は想像以上にダイナミックかつ素晴らしい演奏となり、とても感動しました。また、プロの方々と一緒に歌ったことからプロの凄さを身に染みて感じ、自分もこうなれたら良いなと思いました。



福島県の鳥キビタキ

機関紙 BRÜDER 最終号を発行して



副理事長兼事務局長:岡部善通

◆機関紙は第24号で一旦終了します。1999年9月16日の創刊号以来、長期に亘りご愛読を戴き心から感謝申し上げます。顧みれば第19回の友田昇会長命令で経営再建・第21回の3.11からの復活。そして今回、COVID-19と2年連続の大震災、未曾有の危機を乗り越え再び復活！

これは、全国の「第九」をこよなく愛する総ての兄弟姉妹のお蔭であります。公演直前、コロナ禍等により参加をご辞退された多くの皆様から参加費のご寄付も戴きました。ここに重ねて、本会に御支援・御協力を賜りました総ての皆様へ深く感謝し、衷心より御礼を申し上げます。

最後に東京・前橋・鳴門等において敬愛する先達から戴いた「ご縁」に感謝し、心に響く訓えをご紹介します。

◆「縁尋機妙・多逢聖因」安岡正篤老師(哲学者・思想家)
「人間はできるだけ、いい機会・いい場所・いい人・いい書物に会うことを考えなければならない」。第九・山・禅・合気道等で尋ねた「ご縁」は、生涯の財産であります。

◇一期一会

- ・宮崎奕保禅師、第78世永平寺貫首(享年108歳で遷化)
「霧の中を行けば、衣が湿る」(善き師に付けば、善き人となる)
- ・関屋晋元全日本合唱連盟副会長
「第九合唱団は、大阪城の石垣」(多種多様で良い)
- ・曾我大介先生(ブザンソン等、国際指揮者コンクール優勝2回)
「慣れれば腐る、熟せば深まる」(熟成することが大切)

◇「第九」の恩師

- ・友田昇元会長(元福島県副知事・元福島TV会長)
- ・三浦尚之元顧問(市音楽文化総合アドバイザー、日米の架け橋、外相表彰)
- ・木原幹郎先生(本会OB、福島地裁や仙台高裁元判事)
- ・三瓶芳徳元顧問(小中学校音研初代会長・福島県中学校長会長)

◇マエストロ

機関紙編集人としてインタビューした名指揮者の本名 徹次・松尾葉子・山下一史・小林研一郎の各氏からは「心と体と魂」の大切さを感じ、ベートーヴェン研究家の嶋津武仁福大名誉教授からは、「第九」の神髄や「歴史的背景」を学んだ。心から厚く御礼を申し上げます。

◇Wienで「第九」を歌う！

ベートーヴェンが活躍した街で夢を実現、ボランティア人生の有終の美としたい。では、また会いましょう！
Auf Wiedersehen und Dankeschön. 再見・謝辞。

【お知らせコーナー】

- 人 事: 音楽界の大御所、高橋啓三氏が本会の理事に内定。
- 図書紹介: 「松江豊寿と会津武士道」板東倅虜収容所物語、星亮一 映画「パルトの楽園」の主人公が貫いた会津武士道とは。 会津の男・松江大佐とドイツ人倅虜たちの感動の物語。
- 編集・発行人: 福島「第九」の会 岡部善通 (Y021211)
- 発行所: 〒960-0116 福島市宮代字屋敷畑 2-1